

待ちに待った給食
ごはん 豆まめサラダ
豚肉シューマイ
ミネストローネ

夢の車 ほぼ日刊 Cカラット

第682号

神町中学校 夢色通信社
令和2年7月14日



山形新聞 少年少女の声（7月14日より）

負けたって努力に価値 3年 野口隼都

道德の授業を通して、「負けた人に価値はないのか」ということについて考えさせられた。「負けた人には価値がない」、こんなことをいう人は多くはいないと思います。たとえ負けたとしても、今までの努力が無くなるというわけではない。その努力こそが価値だと思います。

勝ちたいという気持ちは、人にとってとても大事な気持ちだと思いました。勝ちたいと思うから、強くなりたいと思う。強くなりたいと思うから、努力する。それで負けてしまっても「次は勝ちたい」「もっと強くなりたい」と心から思えば、人は次勝つために人一倍努力し、以前の自分より強くなって次の試合に挑みます。この繰り返しを続けていくことが、スポーツのもつ本当の価値に近づくことになるのだと思います。負けてしまった時に「もういいや」などと言ってあきらめたり努力をしても勝てないと思う人、努力なんて無駄と思っている人は、スポーツのもつ価値にはたどりつけないと思います。

負けても後ろ向きにならずなぜ負けたのか、悪いところは何だったのかを考え、次に向かって努力する。繰り返し努力し続ける人は本当に価値があり、どんな壁をも乗り越えていける人だと思うし、それこそがスポーツのもつ価値だと思います。

授業の風景



校内をうろうろしていると、1年5組の英語の授業に出会った。ちょうど、長沼明璃さんが、スピーキングのテストをしているところだった。ク

ラス全員を前に、「I like piano. I play the piano every day.」と、実に堂々とした態度で発表している姿に思わず足を止めて聞きいってしまう。富樫みゆき先生（英語）に話を聞くと、「1年生、すごいんですよ。女子だけでなく、男子もしっかりと話をすることのできる生徒が多いんです。みんなの前で堂々と自分を表現できることは、とても素晴らしいことだと思います。これからが楽しみです。」と話していた。長沼さんは「最初は緊張したけど、みんなが静かに聞いてくれたので緊張も解けてきました。相手が聞き取りやすい声と発音を意識して発表しました。小学校の英語と違って、覚えるべき単語がたくさんあって、少しずつその日のうちに復習しないと追いつかないので大変です。」と取材にに応じてくれた。

さらに総合的な学習の時間では、「ドリームマップ」を制作中の1年生の教室をのぞいてみた。家でかんたんなゲームをつくり、日々バグを修正しプログラムを改良しているという工藤龍樹くんは、「将来の夢はゲームのプログラマーになることです。初心者も上級者も楽しめるようなゲームをつくりたいです。」と話してくれた。工藤くんがつくったゲームが世の中に出回る日を楽しみにしている。

